

# 令和2年度公開研究授業

## 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践 ～「授業デザイン」・「問い」を考える～



- ◇ 研究主題 「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践  
～『授業デザイン』・『問い』を考える～」
- ◇ 実施日 令和2年11月13日（金）
- ◇ 実施内容
  - 公開研究授業 12:55 ～ 13:50 (55分)
    - \* 全体テーマおよび各教科でのテーマに沿った内容の授業を展開
    - \* 授業担当者は、授業開始時に「基軸となる問い」「本時の問い」を生徒に提示
    - \* 研究授業に対する「『問い』に関する授業評価」の実施  
(実施科目) 国語総合・世界史A・数学A・化学基礎・体育・コミュニケーション英語I  
(実施学年) 第1学年
  - 研究協議 14:05 ～ 14:45 (40分) (各教室)
    - \* 教科ごとに「研究主題」「基軸となる問い」「本時の問い」を踏まえた振り返り
    - \* 「主体的な思考力」等についての評価とともに、授業の工夫や意図が生徒にどう伝わり、そこからどのような学びにつながったかなどについて生徒に意見を聞くことを中心に協議
    - \* 授業参観者に加え、受講生徒4名程度も参加する授業に対する質疑応答。
  - 全体研究協議 15:00 ～ 16:00 (60分) (会議室)
    - \* 教科別研究協議における成果・課題の報告、質疑応答
- ◇ 成果と課題
  - ・研究授業に対する「『問い』に関する授業評価」で9割以上の生徒が「自分の考えを深めることができた」と回答した。
  - ・「基軸となる問い」「問いの分類」について、更に研究を進めていく必要がある。

1 公開研究授業

○ 実施クラス・科目

1年1組	1年2組	1年3組	1年4組	1年5組	1年6組	1年7組
世界史A	化学基礎	体育	コミュ英	国語総合	コミュ英	数学A

○ 「基軸となる問い」と「本時の問い」一覧

科目	基軸となる問い	本時の問い
国語総合	作者はなぜ歌をもとに物語を描いたのか？	なぜ女は「風吹けば——」の歌を詠んだのか？
世界史A	帝国主義的な対立はなぜ起こったのだろう？	帝国主義とはなにか？
数学A	整数の性質はどのように日常で用いられているか？	最小公倍数と最大公約数はどのように日常で用いられているか？
化学基礎	なぜその反応は起こるのか(あるいは起こらないのか)？	酸性廃液を中性に近づけるにはどの薬品が適当か？
体育	運動時の安全を確保するために必要なことは何か？	けがが起きないように注意すべきことは何か？
コミュニケーション英語I	英語で話し合い、意見をまとめるにはどのような表現を使えばよいか？	英語で話し合い、意見をまとめるにはどのような表現を使えばよいか？

○ 授業内容

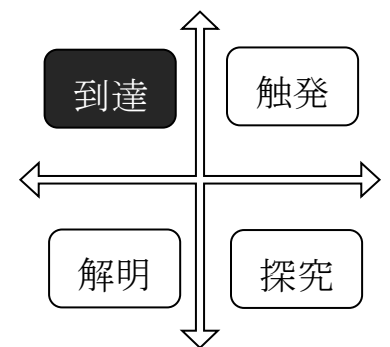
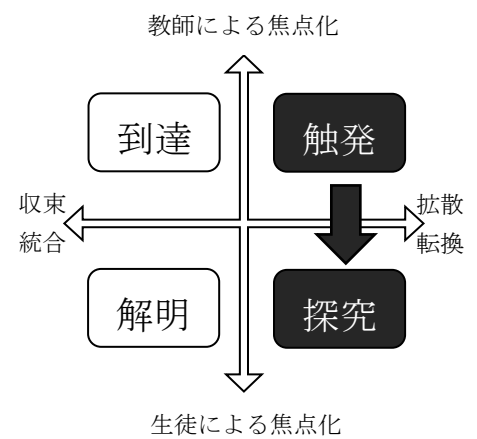
- ・国語科：国語総合 「なぜ女は『風吹けば——』の歌を詠んだのか？」

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. なぜ女は歌を詠んだのかについて考察し、オリジナルの物語を書く	歌を詠んだ際の女の心情を想像させる
2. 女が歌を詠んだ結果、物語はどのように進んでいくのかを考察し、オリジナルの物語を書く	本文を参考にはせず、前時の内容と本時の和歌の解釈のみの情報から考察させる
3. 考察した内容について、共有する	自分にはなかった考えについて、ワークシートに記入する

- ・地理歴史科：世界史A 「帝国主義とはなにか？」

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 割り当てられた産業から、会社名・注目商品を考える	産業製品の特長や当時の社会情勢をふまえ、考えさせる
2. 同じ産業を選んだ生徒同士でグループを作り、最も資本蓄積に有効である生徒の会社に他の生徒の会社が統合する	当時の社会情勢をふまえ、売れる商品かどうか吟味させ、どの会社がより儲かるか考えさせる
3. 問題発生から、「国外で市場・資本の投資先を獲得しよう」という問いに、グループで考える	獲得したい植民地を選んだ理由を考えさせる

【問いの構造・分類】



▲国語科

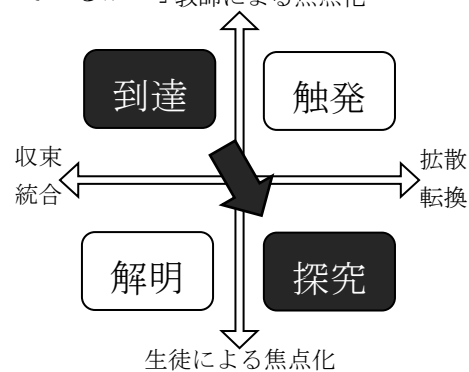


▲地理歴史科



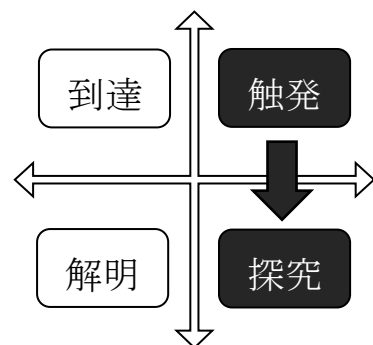
・数学科：数学 A 「最小公倍数と最大公約数はどのように日常で用いられているか？」教師による焦点化

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 問題演習をする	まずは一人で解き、その後各自の気づきを共有する
2. 解いた問題を参考に、日常的な題材を用いて、作問する	意見を共有しながら作成させる
3. 作問用紙を回して、他の人が作った問題を見る	気づきを記入させる



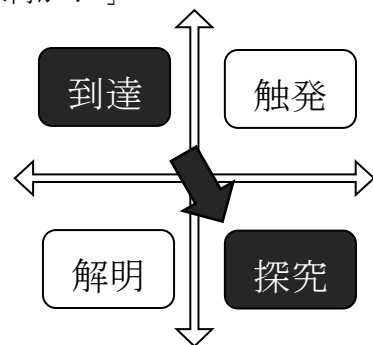
・理科：化学基礎 「酸性廃液を中性に近づけるにはどの薬品が適当か？」

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 各自薬品に関する資料とパソコンを用いて情報収集する	
2. 5人一組をつくり、もっとも有用だと思う薬品を決める	科学的根拠に基づいた主張かどうかと、予想される反論を考えさせる
3. グループの主張をプレゼンする	科学的根拠に基づいた討論をさせる

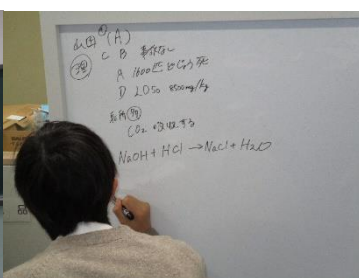


・保健体育科：体育（体育理論） 「けがが起きないように注意すべきことは何か？」

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 今まで経験したスポーツ・体育活動中に起こったけがを書く	スポーツによるけがは、種目によって発生の原因に特徴があること、予防する上で、種目の特性を知っておくことは大切であることを伝える
2. 状況に応じての起こり得るケガ、障害を考える	生徒の現状の確認と今後の取り組み方を考えるきっかけを作る
3. けがが起きないように注意すべきことを考える	



▲数学科



▲理科



▲保健体育科

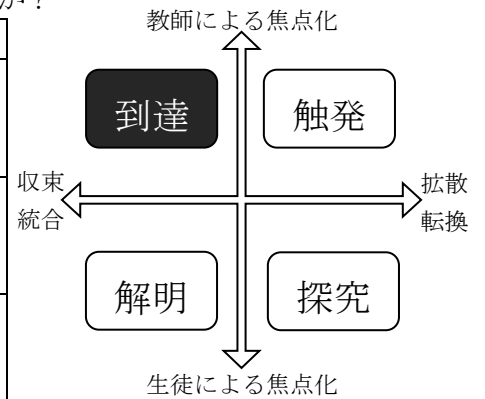




・外国語科：コミュニケーション英語Ⅰ

英語で話し合い、意見をまとめるにはどのような表現を使えばよいか？

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 英語でディスカッションを行うためにどんな表現が使えるか考える	「主張」「反応」「質問」という場面別に使える表現を考えさせる
2. 実際にディスカッションを行い、意見をまとめる	個人→グループで話し合いのように生徒が考える時間を段階的に設ける
3. 問いに対する最善の策を話し合い、意見をまとめる	フレームに沿って、グループの意見を理由を英語でまとめ、発表させる



▲外国語科

2 研究協議会 生徒を交えた教科別研究協議会（振り返り）



▲国語科



▲地歴公民科



▲数学科



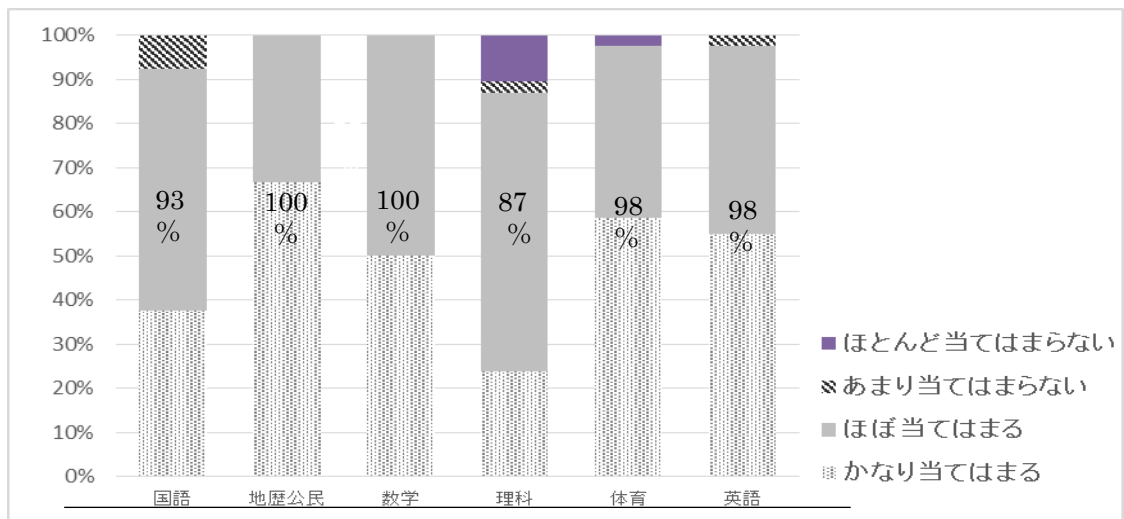
▲理科・情報科

(生徒の意見)

- ・ 「問い」が掲示してあることで、注目すべき点が明確になる。(国語総合)
- ・ 「問い」が与えられて、明確に考える意味を持って学ぶことができた。ただ、毎回は深く考えることは大変なので、演習中心の授業が良いと思う部分もある。(数学A)
- ・ 自分で動く、調べる、強制ではなく自由に議論することで、普段の授業より自身で考える場面が多くあった。(化学基礎)

### (生徒による研究授業評価結果)

今日の授業の「問い」により、自分の考えを深めることができたか？



\*全体平均で90%以上の生徒たちが、「考えを深めることができた」と回答した。

### (生徒による研究授業評価結果 (記述))

基軸となる問いについて、どのようなことを自分で考えましたか

- ・ 自分なりの歌の解釈を考え、他の意見を聞くことで、自分とは違う考えがたくさん聞けて世界が広がった感じがした。(国語総合)
- ・ 今回の問いで考えた英語は相手の意見に反応するのによく使えると思った。また、自分の意見を伝えるのにも重要な表現だと思った。(コミュニケーション英語 I)
- ・ ウォーミングアップやクールダウンの行い方や意味、重要性が広がった。(体育)

本時の問いについて、どのようなことを自分で考えましたか

- ・ シンプルな問いだと思ったが、深く学ぶことで難しかった。貿易の流れと、どのような関わりがあるのか不思議だったが、授業を通して理解することができた。(世界史 A)
- ・ それぞれの薬品の良いところ・悪いところをまとめ、反応の起き方やスピードを考えることで場面や条件に合った薬品の種類を考えることができた。(化学基礎)

### 3 全体研究協議会

「問い」は、どのように作用したか

- ・ 答えを得るだけでなく、何が正しいかを考えるのに作用した。(化学基礎)
- ・ 帝国主義について改めて認識させることはできた。もう少し深掘りできるような問いが良い。(世界史 A)
- ・ 教師からの問いでも、考えを広げることに役立った。問いの分類を生徒に考えさせた。考え方や背景によって分類が変わった。(国語科)

#### 4 今年度の取組の成果と課題

##### (成果)

- ・ 授業に「問い」を組み込むねらい、また、「問い」の分類とその効果について教員全体の理解を深めることができた。
- ・ 「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践」をテーマに各教科で実践した研究授業において、全体平均で90%以上の生徒が「自分の考えを深めることができた」と実感した。

##### (課題)

- ・ 「問い」の役割について検討を重ね、主体的・対話的で深い学びを実現するために効果のある「基軸となる問い」(単元の目標を実現するための問い)を検討していく必要がある。
- ・ 今年度から「問い」の構造・分類について研修を行ったが、各教科で十分な議論はできていない。教科ごとの協議を重ね、「問い」の構造や質の理解を深め、授業改善に生かしていく。